

# 令和2年度 第1回神戸市外国人市民会議 議事要旨

市長室国際部国際課

日時	令和2年9月3日(木) 15:15 ~ 17:15	場所	Zoomによるオンライン会議
出席者	兵庫県立大学経済学部教授 陳来幸、神戸大学理事・副学長(国際・評価担当) 吉井昌彦、 在日本大韓民国民団兵庫県地方本部事務局長 金相英、学校法人兵庫朝鮮学園理事長 金錫孝、 神戸華僑総会事務局長 石鋒、ベトナム夢 KOBE 代表 ズオン・ゴック・ディエップ、マサヤン タハナン代表 戎香里菜、在日本印度商業会議所 ニシャット・トラバリー、関西ブラジル人 コミュニティ CBK 代表 松原マリナ、ひょうごラテンコミュニティ代表 大城ロクサナ、神戸 菅原奨学金奨学生同窓会 林 文勇〔敬称略〕		
	市長室国際部国際課(事務局)、神戸国際協力交流センター(KIC)		
議事	(1) 神戸市多文化共生施策の令和2年度取組状況 ①日本語学習支援 ②「こども日本語サポートひろば」開設 ③神戸市共同居住型住宅改修補助制度 ④すまいるネット窓口の多言語対応 (2) コロナ禍における在住外国人支援 ①多言語による情報提供・相談体制 ②外国人留学生等生活困窮者の生活支援 ③with/after コロナの多文化共生に関する意見交換		

## 1. 開会

## 2. 議事

### (1) 神戸市多文化共生施策の令和2年度取組状況

#### ①日本語学習支援について

(KICより資料に沿って説明。)

委員) 何歳ぐらいの人が受講しているのか?

KIC) 若い方で、特に女性が多い。

委員) 日本語の基礎をマスターするにはどれくらいかかるのか?

KIC) 初級講座は3段階のクラスがあり、1段階が2か月23回、3段階で6か月だが、これではマスターできないので、地域の日本語教室で1~2年かけて実践力を身につけてもらう。

委員) 読み書きを教えているのか?

KIC) 現在は会話を中心に行っているが、今後は書くことも教えることを考えている。

委員) 受講料はいくらか?

KIC) 無料となっている。

委員) スケジュールに地域日本語サポートセンターの開設とあるが、来年のことか?

KIC) すでに開設されている。コーディネーターを中心にボランティアのための講座を実施し、相談などを受け付けている。

委員) 場所はKICCで、二葉町のところのとは別か?

KIC) ふたばもKICCの一部であり、初級日本語教室とかボランティア養成講座とかすべて含めてサポートセンターで行っている。

委員) 講座開設は何年間の見込みか?

国際課) 文化庁の補助金は3年間であり、この間に将来的な神戸市の日本語学習の体制作りをしたうえで、その後もその体制に則って日本語学習を継続していきたいと考えている。

座長) 夜間中学の取組みについてよくわからなかった。

国際課) 夜間中学は本来、中学校の授業を受けられなかった方のための学校であるが、最近、神戸市内ではその約9割を外国人が占めている。そのため、日本語学習の授業が組み込まれているのだが、夜間中学の教師はもともと日本語教師ではないので、KICのコーディネーターが日本語の教え方の講義をしたり、夜間中学の生徒に特別授業を実施したりして、日本語学習の支援を

行ったということである。

## ②「こども日本語サポートひろば」開設について

(国際課より資料に沿って説明。)

委員) 何言語に対応しているのか？

国際課) 事業によって異なるが、ランゲージコーディネーターはベトナム語と中国語、日本語指導については多言語による対応はしていない。

委員) ベトナム語と中国語のニーズが高いので現在2言語で対応しているが、もし要請があれば、ランゲージ支援員を派遣してくれる。現在、ランゲージコーディネーターはベトナム語と中国語だけだが、今後の状況によって増えるかもしれない。

委員) 学校からの通知などを読むのに困っているフィリピンの保護者が多いのだが、対応してもらえるのか？

委員) 「こども日本語サポートひろば」ではフィリピン語の対応はしていないので、学校から教育委員会に依頼して派遣してもらうことになる。

委員) 「こども日本語サポートひろば」ができるまでは、日本語の支援が必要な子供はどこに問い合わせをしていたのか？

国際課) 「こども日本語サポートひろば」ができた経緯は、要支援の子供達には各学校が個別に対応してプログラムを考えていたが、先生方の負担にもなり、それぞれの学校での取り扱いがバラバラになっていたため、一元的な組織を設けたと聞いている。

委員) 学校はそういう子供達を把握していると理解しているのか？

国際課) 把握している。

委員) 学校の現場で日本語のできない子供との面談ではなかなか話が明かない、その時例えばJ S L教室などを学校が紹介していたのか？

国際課) 学校が教育委員会の学校教育課と相談しながら進めていたと聞いている。

委員) 今までは紹介、仲介するところが全くなかったということか？

国際課) 相談は教育委員会にもあったと思う。

委員) 保護者が直接J S L教室に相談することはなかったのか？

国際課) 詳しくは把握していない。

委員) これからは学校で何かあれば、「こども日本語サポートひろば」に連絡・相談が行くように周知徹底されるのか？

国際課) そうだ。

## ③神戸市共同居住型住宅改修補助制度、④すまいるネット窓口の多言語対応について

(国際課より資料に沿って説明。)

座長) 今までなかった制度が発足したということか？

国際課) 神戸市共同居住型住宅改修補助制度についてはそうだ。すまいるネット窓口は以前からあった制度だが、多言語対応できるようになったということだ。

座長) 県営住宅などの住宅の空き室を改造するための制度なのか？

国際課) この補助制度は民間の既存住宅をシェアハウスに改修する際のものである。

委員) この制度は神戸市独自のものか？国が絡んでいるのか？

国際課) 国が絡んでいるかは把握していないので確認する。

委員) 目的がよくわからない。東京オリンピックなどで外国人が増えることに対する制度なら8月からの募集では遅すぎるし、効果的ではないと思う。コロナ終息後のさらに外国人が増えることを前提にしているのか狙いがわからない。

国際課) 住宅確保が難しいのは外国人だけでなく、高齢者、障害のある方もそうである。この制度は外国人に限ってのものではないという前提がある。だが、最近は技能実習生が入ってきており、一戸建てを借りて何人かで住むという形をとっている企業が多く、その支援となればこの制度に組み込んでいる。現在はなかなか外国人が入って来られる状況ではないが、日本人の対象者の支援もあることなので、スタートさせたのではないかと思われる。

座長) 上限50万円か。

国際課) そうである。

## (2) コロナ禍における在住外国人支援

### ①多言語による情報提供・相談体制について

(国際課より資料に沿って説明。)

委員) 次回からでいいので、各相談窓口での件数を教えて欲しい。

国際課) 件数を整理して情報共有したい。

委員) 特別定額給付金のコールセンターで民間通訳サービスにより6ヵ国対応しているということだが、具体的にはどのようなサービスなのか？

国際課) 健康相談電話と特別定額給付金とでは対応が異なる。健康相談電話は日本人、外国人共通の電話番号で、日本語が通じ難い人には通訳センターの電話番号を案内し、相談者に電話をかけ直してもらい、通訳センターから健康相談電話へ連絡、三者通訳を行う。特別定額給付金のコールセンターはコールセンター業務を外部委託していて、その事務所では電話に三者通訳を行う機能がついており、受けた電話をそのまま通訳センターに繋いでいる。

委員) 日本ではコロナ感染のことは保健所が窓口になっているが、保健所では三者通訳を行っていないのか？

国際課) 神戸市では保健所は各区役所に配置されていて、区役所にタブレット、電話を設置してK I Cの三者通訳を利用できるようになっている。

委員) コロナ禍で医療現場などでも多言語対応を拡大して欲しい。

委員) 特別定額給付金の件でベトナム夢 KOBE に問い合わせがあり、コールセンターでベトナム語対応していると伝えても、結局ベトナム夢 KOBE に連絡が入って相談を受けることになっていた。多言語対応しているといっても役に立たないと感じた。コールセンターのしくみが知りたい。

国際課) 健康相談電話であれば通訳センターの電話番号を英語、中国語などのマニュアルを読み上げるかたちで伝え、かけ直してもらう必要がある。健康相談電話は2月1日の開設と急遽決まり、なるべく早く多言語対応したいと考えていたが、健康相談電話の電話機はもともと三者通話用の電話ではなかった。使いづらい点はあると思うが、当初より18言語対応している。特別定額給付金のコールセンターは、直接通訳センターに転送できるようになっていて、通訳センターのコーディネーターにつながる。

委員) 日本語で早口で喋られると、何もわからなくて皆、電話を切ってしまう。もう少し使いやすく改善してもらいたい。

委員) やさしい日本語もわからない人はどうしたらよいのか？

国際課) 英語、中国語等のマニュアルで何とか対応できないかと考えている。特別定額給付金のコールセンターでは日本語が通じないと判断すればそのまま通訳センターのコーディネーターに電話を回し、対応している。

委員) 以前コミュニティの人の相談で両方に電話をしたことがあるが、どちらも日本語がある程度できないと何も通じなかった。入口は常に日本語である。音声ガイダンスなどを使って案内することを提案したい。

国際課) どういう対応が可能なのか検討していきたい。

### ②外国人留学生等生活困窮者の生活支援について

(K I Cより資料に沿って説明。)

質疑なし

### ③with/after コロナの多文化共生に関する意見交換

委員) コロナ禍において、中国武漢から発生したから「武漢ウィルスだ」、志村けんさんが亡くなったときには「中国人に殺された」、コロナに罹った人の実名をあげつらったりと、潜在的にあった差別的な感情が助長されて、日本中に蔓延しているのではないかと感じた。この時期だからこそ差別の弊害等の啓発を行政が行うべきではないかと思う。もともと外国人コミュニティとその活動は濃厚接触がとても多く、接触して人間関係を深め、広げていくもので、コロナは団体の存続にもかかわる問題になっている。コロナはコミュニティキラーだと思う。私自身が実感したのは、コロナなどの災害対策の中で多文化共生と向き合い、日頃できていないこと、不十分なところを補強することが大事だと思った。

委員) 委員と同様に差別的な雰囲気助長されていると心配している。神戸市内に外国人学校が8校ある。外国人学校は多文化共生ということから、近隣の方々や日本の学校の生徒などと色々な

交流をしてきたが、コロナの影響でそれが全くできない状況である。その中で多文化共生、交流をどのようにやっていくのか、大きな課題であるが、オンラインで日本の学校の生徒と交流を行うなどやっていきたいと思っている。外国人学校では文科省なり国が進めているコロナの感染予防の援助や補助が全て除外されている。補助対象となったのはマスク購入費、児童・生徒1人当たり170円だけである。修学旅行のキャンセル料の補填費用やスクールバスの消毒費用など、これらは日本の学校では補助が出ているが、外国人学校は全て除外である。感染予防対策は外国人学校でも同様にしなければならないのに、勝手にしろという感じである。多文化交流するにもお金がかかる。外国人学校の立場では、コロナ禍、神戸市の中で子供達が安心して多文化交流できる対策や支援を考えていくことが大切である。同時に毎年学校助成金をもらっているが多文化共生の部分が大きく占められており、今年は交流などができないので助成金がほぼないような状況である。そういったことも根本的に見直して欲しい。

委員) できる限り情報を取ってSNS等を使って発信することを検討し、少しずつ増やしていこうと思っているが、その情報が載っているものが市のホームページやKICのホームページなどとはばらばらなので、外国人の市民にもわかりやすく統一して欲しいと思った。

委員) 今回コロナに関してはいろんな情報が出ていたが、外国人としてはその情報が正しいのか混乱していたので、行政からなるべく早く情報提供してもらいたい。神戸市もKICも情報をくれるが、翻訳が必要ということで、発信が遅い。ベトナム夢神戸としてベトナム語訳をしてFacebookに乗せた後に、ベトナム語訳を作りましたと情報提供が来る。翻訳とか連携もできるので、情報が出たらすぐに欲しい。

委員) コロナウィルス、給付金に関する問い合わせがあり、区役所にも問い合わせたりして、できる範囲で対応している

委員) コロナの中で、外国人差別を受けたり、学校から外国人の登校を拒絶されたという情報もあった。もちろん経済的に困っている人も多いと思うが、今回のコロナで精神的ストレスを感じている人も増えている。給付金のコールセンターだけではなく、電話した時に電話のボタンで多言語を選択できるなど、外国人も使いやすい心のケアをするコールセンターを整備してもらいたい。どこに相談すればよいのか分からず、コミュニティに相談に来られる方がいるが、コミュニティでは対応しきれない部分も出てくる。ぜひ行政の窓口を拡大してもらいたい。

委員) 知人が日本に旅行に来た時、コロナにより帰国困難となってしまった。持病の薬は旅行の日数分しか持っていなかったもので、日本でその薬を手に入れるのに大変苦労した。幸い、知り合いの医者に相談してなんとかあったが、そのような時一般的にどうしたらよいのか分からない。

委員) 残念ながらスペイン語の情報がほとんどない。毎月私たちが作っている情報誌1万2千冊を全国に送っており、神戸市、兵庫県だけでなく全国から相談が来る。コロナウィルスに関する情報を月1回の情報誌、毎日のフェイスブックやホームページ、週2回のラジオ番組を使って2月より情報発信している中で、様々な相談も受けて対応しており、とても疲れている。国からの多言語による情報発信やサポートがもっと必要だと感じている。コロナの電話相談にしても、日本語の全くわからない外国人では通訳してもらうところまでたどり着けない。もし、コロナにかかってしまったら、日本語もわからず医療現場でどうなるのかという不安もある。コロナにかからない為にも多言語による情報発信をお願いしたい。

委員) 私たちのコミュニティは現役の留学生や元留学生で日本で就労している人が多い。神戸市の有償ボランティア事業も含め、日本でのアルバイトや就職、日々変わる出入国の情報を様々なルートで取得し、SNSを通じて留学生や元留学生の団体に情報を発信している。今後もこのような情報提供を継続していきたい。

副座長) コロナ禍において大学ではまずオンライン授業で学生が来ない、学生同士の交流がない中、国際交流、多文化交流がない状況である。これから再び国際化を盛り上げていくのは大変だと思う。本日の議題の中で、シェアハウスの話があったが、大学の国際寮というのは、特に最近、真ん中に交流可能な共用部分があり、その周りを4部屋ほど寝室があるというような日本人と外国人が混在する間取りが推奨されていた。しかしコロナ以降、この形は嫌われていて、元の個別の部屋のみ間取りに戻されることになると思われる。寮の中での国際交流もなくなってしまいう状況になる。コロナがインフルエンザのように気にならないような世界にならないければ、国際交流の復活は難しいと思われる。

国際課) 長時間ありがとうございました。皆様の様々なご苦労など伺うことができました。特にこのコ

コロナ禍の中、言葉や情報の提供などをできるだけタイムリーに行っていきたいと考えており、本日伺った皆様の意見も踏まえ、更に修正できるものは修正していきたい。また、神戸市で条例を施行したところであるが、気になったのは差別の問題で、神戸市では際立ったものはないと思っているが、この問題は外国人の方々のみならず「自粛警察」と言うようなものもあるように、日本人も含めた皆の問題でもあるので、一緒に考えていきたいと思います。もう1点、学校の支援など、国の支援が一律ではないと言う制度の問題ですが、神戸市単独では難しい面がありますが、神戸市が皆様にとってふるさととして長く住んでいただけるまちであるように、皆様のご協力もいただきながら、また国に伝えるべきことは伝え、少しでも改善できるように努めていきたい。

以上